

「桜山中学校の山下・水流太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

枕崎市立桜山中学校

2 学年・人数

中学校1年生1名(入鼓), 3年生1名(鉦打ち) <計2名>

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

8月(夏休み)に鉦打ちと入鼓の個人練習(夕方2時間程度)【山下公民館】

10月1日~全体練習(夕方2時間程度)【山下公民館】

(2) 発表の日時・場所

平成30年10月28日(日)13:00~豊年祭踊り奉納【南方神社】

平成30年10月29日(月)13:00~豊年祭踊り奉納【妙見神社】

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

山下・水流太鼓踊り(やました・つる たいこ おどり)

(2) 由来

今から約400年前(1596年~1614年頃), 薩摩藩士島津義弘公が度々の出陣の際, 兵の士気を鼓舞するために踊らせたものだと言い伝えられている。現在では五穀豊穰を祝い神社に奉納している。戦時中には中断していたが, 昭和24年市制祝賀の参加がきっかけとなり復活した。

(3) 構成等

大人の踊り子約20名が, 鉦打ちと入鼓を囲みながら円陣を作って踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 本太鼓踊りは, 桜山校区の西鹿籠地区に伝えられたもので, 山下公民館長が保存会の代表でもあり, 中心となって取り組んでいる。

(2) 練習には保存会員はもちろん, 公民館の役員をはじめ女性部の皆さんの協力をいただいている。

(3) 伝承活動に係る費用は, 市内全域の企業からの寄付をはじめとして地域の方々の寄付や御芳志, 山下・水流両公民館からの助成, 桜山校区公民館連絡協議会からの助成, 枕崎市からの助成等で賄っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承を中断させないために, 山下・水流両公民館に関わるすべての人々の協力を得ることが何よりも大切だと思う。特に踊り手の確保が重要で, 高校生を含めた青壮年の参加は必須であり, 特に少年期から親子での参加を促し, 地域行事に興味を持って自然な形で参加できるような環境作りも必要である。また, 保存会の代表が公民館長でもあることから, 公民館行事等で青壮年部との信頼関係が築かれており, 本年度も集落内にいる青壮年の全員が踊り子として参加できた。

7 取組の様子（練習状況, 発表の場等）

＜南方神社奉納＞10月28日（日）



＜妙見神社奉納＞10月29日（月）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 鉦打ちと入鼓担当の中学生2名は野球部に所属し、日々の練習や対外試合等があり、部活動と太鼓踊りとの両立が大変な中、夜に公民館長宅で太鼓踊りの指導を受けながら踊りを習得し、本番の豊年祭り（ホゼマツリ）では、地域の人々に見守られ立派に披露し神社に奉納できた。また、保存会や保護者からも安心して見ていられるようになったとの声が寄せられ、10月29日の祭り打ち上げの反省会では、警察署長をはじめ中学校の校長、教頭、担任の先生から「本当によく頑張ったね。」と労をねぎらっていただいた。（保護者から）
- 保護者の苦労も大変なものがあったが、地域の人たちのおかげで大きな行事が成功し、その力で地域が発展・充実していくとともに、青少年もそういう経験を体得しながら健全育成につながっていくように思う。これからも、太鼓踊りの伝統文化継承と更なる地域発展に寄与したい。（保存会から）